

# 第180号

発行所  
 社会福祉法人  
**西陣会**  
 HP: <http://www.nishijin.org>  
 E-Mail: [nishijinkai@nishijin.org](mailto:nishijinkai@nishijin.org)  
 〒602-8464  
 京都市上京区元誓願寺千本東入ル  
 TEL (075) 451 - 8971  
 FAX (075) 451 - 5700

発行者: 南大路 文子  
 編集責任: 浅田 将之  
 郵便振替口座  
 01030-5-23086

ホームページでも  
 ご覧になれます

当法人への寄付金は、課税控除対象となりますので、その為の受領書が必要な方はお申し出下さい。

2019年10月の台風19号に遭われた方々や、様々な状況の中で、お心に、お身体に辛さや悲しみを抱えておられる方々に、安らぎの日々が備えられますよう、心からお祈り申し上げます。

## 心に刻み、思い続けながら

新しい年を迎えました。みなさま、どの様なお気持ちでお過ごしでしょうか。おひとりおひとりの置かれている状況や心に刻まれることのひとつひとつが、さまざまに深さ重さ、形を変えながら、あるいは、まだ変わらないままに、年を越されたことと思います。

その代わりに、根を下へ下へとおろして、根を張るのです。次に咲く花が、より大きく美しいものとなるために。」と。私はこの言葉に、慰められ、励まされてきました。

昨年、お亡くなりになったカトリックのシスター渡辺和子さんが著書「置かれた場所で咲きなさい」の中で、語っておられました。「置かれたところで咲いてください(中略)……どうしても咲けない時もあります。雨風が強い時、日照り続きで咲けない日、そんなときは無理に咲かなくてもいい。



シャボン玉をしながら

灯りによって、あたためられ、照らされて生きています。そして、今度は自分がその灯りを人にともすこと。それは、ひとがお互い同士、助け合い、持っているものを分かち合って生きていく姿なのだと思えます。

2019年10月に発生した台風19号の被害に遭われた皆様には心よりお見舞い申し上げます。被災された皆様が一日も早く平常の生活に戻ることができまますようお祈り申し上げます。

## 関西障害者災害支援基金報告

をして、関西障害者災害支援基金代表渡辺哲久氏(社会福祉法人ひまわり)と相談の上、当基金から被害に遭われた障がいのある方々の生活を応援することを決めました。少しでも元氣を出していただくことを願って物資又は支援金等を送らせていただきました。

今回の台風による堤防の決壊などにより、福島県内各地でも甚大な浸水被害が発生し、死傷者も出て、再び多くの方が避難生活を余儀なくされています。東日本大震災以降、原発の不安を身近に感じながらも、少しづつ平穏な日々を取り戻しておられるところでした。

- ◆送先
- ①訪問看護ステーション なごみ(相馬市)
  - ②NPO法人ままはーと(いわき市)
  - ③社会福祉法人ほっと福祉記念会(郡山市)
  - ④工房もくもく(相馬市)
  - ⑤NPO法人ゴールデンハープ(いわき市)
  - ⑥ゆうゆうクラブ(相馬市)
  - ⑦社会福祉法人いわき福音協会(いわき市)
- 総額約125万円分を抛出いたしました。  
 残高118万3222円  
 11月30日現在  
 関西障害者災害支援基金  
 事務局長 浅田将之

# 地域生活支援二ユース

## 地域活動支援センターふらっと 30年を迎えて

地域活動支援センターふらっと 所長 宮崎 一 弥

2019年度、地域活動支援センターふらっとは発足してから三十年の月日を迎えています。まずは、地活ふらっとの歴史を少し振り返ってみたいと思います。

1984年夏から家庭療育援助グループピーポの父親の有志を中心として、重度の障がいのある方も利用できる共同作業所づくり(ピーポステップ)の準備を進めてきました。しかし、開所目標にしてきた1989年に公的な授産施設の開所が予定され、以前ほど重度の障がいのある方の利用が困難でなくなり、作業所づくりが当時のニーズではないという結論に達し、作業所づくりの準備を断念することになりました。

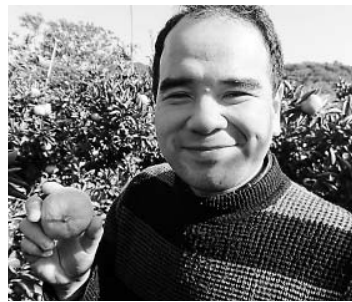
その後、「ピーポステップ」を断念した時点で、西陣会としてはどうするのかという課題が残ります。議論を重ねた結果、意見は二つに大きく分かれました。一つはそのまま継続して作業所

設置の方向で考えるという意見。もう一つは現在のニーズに合った形で障がい者問題に関する何らかの取り組みができればという意見。議論はなかなか進まない状況が続いていましたが、議論を重ねて、障がいのある方とボランティアが一緒になってプログラムを考えながら社会参加活動をしていくグループ作りを！との結論に至り、「障害者自立援助事業ふらっと」が始まることになりました。



カラーで見せたい青い空 in 鳥取砂丘

当初は、トイレットパーパーを販売し、その売り上げを職員の人件費等に運用していました。今では、そのパーパー販売はデイセンターふらっとの作業の一環として受け継がれています。しかし、より安価なパーパーの出現により、売り上げも落ち込み、ご利用者ご家族から頂く活動費の半額を運営に回すこともおこなってきました。



生産者の方ではありません(笑)

そんな中、2003年4月から支援費制度が始まり、ご家族と共に今後どのようにしていけば良いか検討を重ねた結果、公的なサービス(知的障がい者デイサービス)のもとにおいて日本初の夜のデイサービスとして新たに発足することになりました。より継続的な事業運営となりましたが、これまでとは全く違う運営形態となるため改めて活動の見直しやサービスの在り方を見つめなおすことになりました。

2006年10月より障害者デイサービスが障害者自立支援法に基づく新体系に移行せねばならないことに向けて、再度ご家族と共に今後の方向性を話し合う機会を設ける。2003年以前の旧体制の形に戻す方が良いのか、新たな公的な施策の元で事業運営していく方が良いのか家族会とともに議論を重ねた結果、京都地域生活支援事業の地域活動支援センター(余暇型)という新たな体系で事業開始することになり、現在に至ります。



これからもよろしく!

私たちは障がいのある方の余暇支援、本人支援、社会参加を目的に活動を実施してきました。発足して30年も経過した今でさえ、京都市内はもとより全国的に

も夜間の地活はなかなかありません。30年たった今でも、まだまだ先駆的な活動なのだと思います。障がいのある方が、自由に仲間たちと、ふらっと出かけられる地域、誰もがflatな関係で楽しめる当たり前の社会に少しは近づいたのでしょうか。障がいのある方を取り巻く制度は整ってきて社会資源も増えていきます。けれども私たち地活ふらっとの草の根的な運動はまだまだ続けていく意味がありそうです。

### 京都めいぶるワイズメンズクラブ様より助成金をいただきました。

いつも、西陣会並びに、地域活動支援センターふらっとをお支えいただいている京都めいぶるワイズメンズクラブ様より、助成金10万円を頂戴いたしました。

これまで、三十年もの長い間、地活ふらっとを温かく見守っていただき、心より感謝申し上げます。

メンバーの皆さん、ボランティアの仲間たち、そして職員一同に代わり、この場をお借りいたしまして厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

西陣会居宅サービス係

YOU and ME

大富菜奈美 菅 真旅人  
松本華緒莉 片山 健太

「嫌い！ あっち行ってよ」と言われてショックを受けた次の日には「こっち来てよ」と甘えてくれてほわっ……。お金も療育手帳もないのにバスに乗ろうとされ困り、ラーメン作って笑い合う。困ったりしんどかったりもお互いに助け合っていた。楽しい経験も一緒にしました。思い返す度に一緒に過ごしてこんな素敵なことなんだと感じます。(大富菜奈美)

ある日、ご利用者さんと外出中に目の前で美味しそうなアイスを食べている男の子がいました。とても羨ましくうな声をあげるご利用者さん。すると、男の子が「……食べますか？」と声をかけてくださりました！ 男の子の優しさにご利用者さんと共に嬉しい気持ちになった瞬間です。地域の方の暖かさに触れることができるのもヘルパーの仕事の良いところだと感じました。(松本華緒莉)

私の楽しかった支援といえはばお正月に初詣に行ったことです。北野天満宮に行きました。少し不安もありましたが、とてもご機嫌で過ごすことができました。普段の外出とはまた違う一面を見ることができ勉強になりました。今年はこの初詣に行こうかと考えています。(菅 真旅人)

西陣会で登録ヘルパーをしていた頃から二年ほど空いて入職したため、久しぶりのご利用者さんの支援に入る機会が多くありました。以前よりもヘルパーを気遣ってくださったり、できることが増えておられたりなど、昔とは違う一面が見られた時に嬉しさを感じました。今後もご利用者さんと一緒に過ごす時間を大切にしていけたらと思っています。(片山 健太)

デイセンターふらっと

環境づくり

副所長 本林直人

デイセンターふらっとが使用している本部奥の建物の耐震補強工事を10月から行っています。工事の内容としては2階のホールの南北の壁を新しい壁に変える工事です。工事の期間中に2階(ホール)はもちろんのこと、3階(和室・スタジオ)も解体工事などの音や振動が大きいときには使用することができず、2・3階を使用していた、ユニット①と③は西亀屋の分室での利用人数を増やしたりや活動しています。(ユニット③は11月中旬に元の部屋に戻っています)

デーションを作り、それぞれが快適に過ごしてもらるように配置しました。はじめは不安もありながら段々と慣れてくる人もいれば、慣れてこられたことで緊張が解けて周りが気になる人や、いつまで要るの？と先の見通しが持ちにくくなるのかちよつと不安定になられた方もいましたが、想像よりも皆さん安定して活動されています。

この引越して、環境の大きさに改めて気が付くことができ、ユニット③が元の部屋に戻るまでに、部屋の中のレイアウトを変えてみたり、一日の流れを変えたり、導線や音についても再検討ができています。ユニット①に関しては、早くても元の部屋に戻るのは1月中旬ぐらいになります。それまでに、備品や机の位置を一から考えることができると、皆でより良い環境になるように考えていきます。

先日、機会があつて石川県白山市に本部を置かれる『社会福祉法人佛子園』のいくつかの拠点を見学させて頂いた。石川県の中で、北は輪島市から南は小松市まで広域に事業展開されている。また、地域で暮らす子どもから高齢者、障がいのある子・人らが『こちやまぜ』で共生できる社会を作るというコンセプトに基づく先駆的でユニークな取り組みは、メディアで取り上げられ書籍化もされて非常に注目されている。そんな佛子園を見学させ



デイ旅行 ブドウ狩り

ショートステイゆう

自分の中にある絆

所長 寺田 文

先日、機会があつて石川県白山市に本部を置かれる『社会福祉法人佛子園』のいくつかの拠点を見学させて頂いた。石川県の中で、北は輪島市から南は小松市まで広域に事業展開されている。また、地域で暮らす子どもから高齢者、障がいのある子・人らが『こちやまぜ』で共生できる社会を作るというコンセプトに基づく先駆的でユニークな取り組みは、メディアで取り上げられ書籍化もされて非常に注目されている。そんな佛子園を見学させ

て頂いた第一印象は『コレが社会福祉法人!? コレが福祉施設!?』という、価値観が180°C変えられる感覚でした。外観はオシャレで、建物内には温泉やカフェ、キッチンスタジオまである。まるでリゾート施設に居るような居心地の良い感覚。カフェでは障がいのある人が3杯目のコーヒーをおかわりされている。『何杯飲んでるの!』なんてコトは雰囲気や風景が言わせない。

多様で複雑化する社会課題に対して、「子どもだけ」「高齢者だけ」「障がい児・者だけ」という枠でなく、誰にとっても居心地の良い、HAPPYになれる場所や視点の必要性を感じました。また、本質として曲げずに大事にしつづけないといけない事と、自分の感覚をアップデートしつづける両側面の大切さを感じました。

私にとつての当たり前は誰かにとつての当たり前ではない。時代は変わっている。進んでいるのか後退しているのかは分からない。でも変わっている事は事実。その中で「今の自分のはたらかはどうか?」「これからどんなはたらきをするの?」「そんなコトを自問して、自分の枠の小ささを感じる旅でした。」

西陣会ホームとなり・きたまち

## 災害、サバイブ、地域のつながり

生活支援員 尾崎暢俊

今年台風十九号が上陸した際に東京台東区の避難所がホームレスの受け入れを拒否したことがニュースになりました。災害時に保護される生命を、属性によって恣意的に一方的に選別するなど言語道断ですが、そのような自治体が現に存在するということを重く受け止めています。

京都市から発表されているハザードマップによれば、上京区は水害に強い地域であることが伺えますが、地震やそれに伴う家屋倒壊、火災に関しては他の地域と同様に全く油断ができません。日ごろの備えが必要です。

十一月二十三日に実施された嘉楽学区総合防災訓練に、となり・きたまちからも、入居者さんが参加されました。土曜の朝にいつもと違う道で向かった嘉楽中学校体育館。張詰めた空気の中で

見知った顔を見つけ、ホッと破顔される場面もありました。

訓練は劇仕立てのサバイバル術講義をはじめ、災害時に自分と周りの身を守り、生き抜き、生活を立て直していくまで命を繋ぐための技術と心構えを学びました。私たちの訓練への参加を通じて「特別な配慮が必要な方がこの地域にもいる」ということを、入居者の方々の存在と共に、皆さん心に留めて下さったと思います。配慮を必要とする人がいて、そのとなりに寄り添う人がいる、集まる。その様子が助け合いの発信源となるよう、普段から意識して行動したいと感じました。

まず顔と顔が繋がること、そして本人・家族・支援者の発信によって地域の理解を深めていくことが、平時の時から大切です。

支援センター「こころ」

## 自己満足と言われるのかもしれませんが...

センター長 宇川征宏

台風19号のニュースを聞いて、いてもたってもいられなくなりました...

いわき市に住む友人に電話をするといつもその声か返ってくる。ラインを送ると直ぐに返事も来る。ただ、その背景には、台風による大雨にて、近所の川が氾濫し、自宅が床上以上の浸水があるにも関わらず、いつものように振る舞っていることを思うと、どうしても会いに行きたくなかった。

いわき市に着くと、ポリタンクを積んだ車が走っていた。今まで、訪れた際にはあまり見たことがない光景であった...

友人の家に行くと、既に大勢の仲間が家の片付けや掃除を始めていた。少し前まで、一緒に地域を訪問したり、会議で頭を抱えたり、飲み食いしていた仲間。離れていた距離や時間を感じることなく溶け込むことができた。あの日、友人家族が長年大切に積み上げてきたものが、突然奪われた。泥をふき、洗浄し、乾かし綺麗にしても、そこにあつ

た感情までは綺麗に出来ない...家族全員が元気なのが本当に幸いだった。

翌日は、彼らが関わっていた方や友人の家の片付けに入った。想像を絶するような状況だった。水が押し寄せてくるという恐怖と闘い、水がひいた後の土砂等を見て愕然とし、これからの生活のことを考えるとどれだけの不安を抱えたのだろうか。帰り際には、「なんとかなる。頑張っぺ。」と口にされていた。9年前にあつた大きな被災を乗り越えた逞しさなのだろうか...

判断が出来る方は、今後のことを考え易い部分はあると思う。判断が苦手な方は、今後のことを考えるのは難しいと思う。そのような中でも時間は流れ、地域等での生活は続いていく。その方達だけに任せることなく、自分達が平和で安全な地域にいるから関係ないではなく、忘れることなく、関わっていきたいと思う。最近の災害にて、被災された方々の生活が一日でも早く平穏になりますように。

支援センター「きらリンク」

### 視点は違えど

相談員 佐藤 匡

今年度から成年後見人申請時に医師の診断書作成に参考となるよう「本人情報シート」の作成が福祉職に求められることになりました。申請ケースによっては家庭裁判所からの問い合わせもされることもあり、これまで届けられなかった身近な支援者の意見が反映される重要な書類となります。5月には家庭裁判所による「本人情報シート」の記入方法と活用について」の説明会もあり、参加してきましたが、作成時の大きなポイントとしては、本人の良い状態を念頭にチェックしていくことです。支援を必要とする状況についてを具体的に記述する欄もありますが、一定の権利が認められる補助類型や補佐類型とを丁寧に検討し、安易に判断能力がほとんどないとみなされて後見類型となり本人の権利を侵害しないようにするための視点となります。

支援の必要性を伝えていく書類作成で、これまで馴染みがあったのは「障害支援区分認定調査」で、調査する時にはその人の一番悪い状態を意識して調査します。これは区分が低く出てしまい、本人にとって必要な支援を届けられなくなることを避けるためです。

正反対の視点となりますが、どちらも大切にしているのは本人の権利を守ることであることは一致しています。「本人情報シート」作成の取り組みはまだまだ始まったばかりで、どのように書けば良いのか慣れない部分もあるでしょうが、今後書類作成を求められた時には、しっかりと利用者の立場に立つての作成を心掛けていきたいと思っています。

朝7時30分にオムツをはいて嘉楽中学校の体育館に集合、地域の方々に着付けをしていただき、運動場で全体写真の撮影を終えて、貸し切りバスで京都御所に移動、休憩、昼食、トイレを済ませて、13時30分、延暦文官参朝列として嘉楽学区の皆さんと出発。

公益的な取り組み

### 晴れ舞台！ 時代祭 嘉楽学区が延暦文官参朝列

京都市民福祉センター 館長 浅田 将之

平安神宮に向けて約2時間30分間の道のり、途中止まったり、進んだり、縦横の列を合わせながら進む。沿道から声がかかっても、知り合いを見つけても手を振らず会釈にとどめるということ。説明会で聞いていた加藤大貴さんは立派に最後まで姿勢を正し、威風堂々と役になりきって歩かれました。

時代祭参行にあたり参朝列への参加者募集があり、嘉楽学区で暮らしておられる加藤大貴さんと職員宮崎、五十嵐、浅田と一緒に申し込んでいました。私たちが一緒に参加させていただき、サポートするので障がいのある加藤さんと一緒に参加させてもらえ

るよう町内の方、嘉楽学区喜多会長、中島消防分団長にもお願いし、7月に参加決定のお知らせが届き、ドキドキ、ワクワク、ハラハラを実感しながら当日を迎えることになりました。学区内に掲示されている「10月26日(土)時代祭」のポスターを外出中、目にするたびに、加藤さんは「祇園祭がらばろな」と言われ、私は「時代祭やで」と訂正し、頑張ったらもらえると約束された「プロ野球チップス3つ、アイス1つ、ジュース1本」を励みに、約4ヶ月間、毎週、歩く練習(外出のついでですが)をしながら当日を迎えていました。



時代祭 平安神宮にて

との楽しい時間を過ごさせていただけました。多くの住民の方々のご理解とお支えがあり、大変貴重な機会を与えていただきましたことあらためて感謝申し上げます。加藤大貴さんは当日が近づくにつれ緊張も高まっておられました。立派に歩けたことで達成感、充実感を味わっていただけたと思います。嘉楽学区の方々から「よく頑張ったね」のお声掛けに嬉しそうに顔をほころばせておられる姿をみると、一緒に出られてよかったです。私も感動をかみしめています。

# 路地裏ステーションニュース

## 西陣児童館

### 児童館の絵本読み

ボランティア 井川 じいじ (井川 裕)

西陣児童館で絵本読みのボランティアを始めてから4年半が過ぎました。きっかけは児童館スタッフさんの私の声が『本読み』に向いているとの話からです。

絵本読みデビューは、二歳児クラス・びこびこクラブでした。幼児たちと仲良くなれるのか？泣いてしまふのではと絵本を読む前に問題でした。昔演っていたハーモニカを吹いたり、折り紙で遊んだり、いろいろやりましたが幼児とのボデイコンタクトが一番の仲良しへの力となりました。お母さんたちの暖かいご支援は本当にありがたかった。お母さんから『いばりいぬシリーズ』を子供が楽しみにしています。と言われたときは「やったー！」と叫んでいました。

4年目の4月からは、小学生に移行することになりました。放課後、児童たちは三々五々と児童館にやってきて、お友達とボール遊びやゲームをしたり、宿題をしたりしています。子供達は生命のエネルギーに満ち溢れています。知識欲、運動能力、コミュニケーション力は高いレベルに達しています。小学生への絵本読みにあたっては、びこびこクラブにはない緊張が走りました。どのような絵本が子供たちの興味をひくだろうか？ 選んだ絵本が子供たちにちゃんと伝わったのだろうか？ 毎日が試行錯誤の連続です。

児童館で本読みをするようになったとき一つの思いがありました。それは自分が三歳の夏(1945年6月)に体験した大阪での空襲のお話です。今年の7月、丸木俊「ひろしまのピカ」をとりあげました。絵本読みの前に大阪での大編隊のB29の空襲のなか、母に手をひかれ逃げ惑った話をしました。ピカのお話も皆な、声一つ無いような真剣な表情で聞いてくれました。終わった後、何人かの子供た

### 京都市障害のある中高生のタイムケア事業「ういず」

## 「想い」をつなぐ

藤賀 一暢

「障がいのある子どもに関わるサークル等交流会」に「ういず」として参画し始めたのは、2014年3月のことでした。約6年の間に様々な大学生の方と交流させていただき、様々な「想い」に触れさせていただいたなと感じます。

学生から話を聞いていると、大学で社会福祉を専攻しても将来的には別業界への就職を目指していたり、そもそも社会福祉を専攻する学生の数が減っていたり……という現実があるようです。そんな中、「障がいのある子どもと関わりたい」という想いをもってサークル活動している皆さんつ

ちが「じいじ、今日のお話怖かった」と話してくれました。絵本読みが子供たちの夢を広げ、優しく遅しく育つていく力に少しでもなることを願っています。子供達からはいつも元気(エネルギー)を貰い感謝しています。

「障がいのある子どもに関わるサークル等交流会」に「ういず」として参画し始めたのは、2014年3月のことでした。約6年の間に様々な大学生の方と交流させていただき、様々な「想い」に触れさせていただいたなと感じます。学生から話を聞いていると、大学で社会福祉を専攻しても将来的には別業界への就職を目指していたり、そもそも社会福祉を専攻する学生の数が減っていたり……という現実があるようです。そんな中、「障がいのある子どもと関わりたい」という想いをもってサークル活動している皆さんつ

すごい！と率直に思います。大学時代の自分はなんて無知で怠惰な人間だったんだらうと(笑)。ベースとして障がいのある子どもに関わりたいという想いをもった皆さんですが、各々が更にあるんな想いをもっています。教育や社会福祉専攻以外の学生もサークルに所属していますし、年度が替わって活動の中心となる代が替わると、サークルのカラーもがらりと変わったりします。「同じような活動をしている他団体と交流してみたい」というのも、いろんな想いの中のひとつでした。ただ、その実現にはちょっとした



# 活動日誌

## 【本部業務・公益事業】

### 10月

1日 キャリアパス&人材育成計画推進委員会  
 13日 衣笠学区運動会  
 (小松原北町・南部町会)  
 ↓雨天中止  
 嘉楽学区体育祭  
 ↓途中で雨天中止  
 デイ建物耐震補強工事開始  
 めが千本100円商店街  
 21日 月曜集会  
 時代祭へ参列  
 (浅田・宮崎・五十嵐)  
 産業医面接相談会  
 安全衛生委員会  
 ステップアップ研修  
 ①委員会

### 11月

3日 京都市消防団定例表彰式  
 7日 上京年金事務所の事業所調査  
 ステップアップ研修  
 ①発表会(武田理事)  
 地域の家臨時総会(浅田)  
 胸ドキキックベース大会・嘉楽わっしょい  
 西陣マルシェ  
 11日 月曜集会  
 人材育成会議  
 人材育成会議  
 時代祭直会(浅田)  
 産業医面接相談会  
 安全衛生委員会  
 キャリアパス&人材育成計画推進委員会  
 嘉楽学区総合防災訓練

### 12月

2日 月曜集会  
 リスマス  
 8日 日本酒の会  
 (レクリエーション委員会)  
 9日 キャリアパス&人材育成計画推進委員会  
 ステップアップ研修  
 ①委員会  
 12日 西陣会職員交流忘年会  
 産業医面接相談会  
 安全衛生委員会

## 【西陣児童館】

### 10月

8日 ぼこあぼこ『ほっこりニコニコトーキング』  
 26日 京都やんちゃフェスタ2019に参加

### 11月

24日 上京の子どもまつり  
 (中山・伊藤)  
 26日 12月2日 第一ブロック職員交換派遣研修(伊藤)  
 30日 出前児童館『おもちゃつき』

### 12月

18日 京都市児童館第一ブロック交流反省会  
 (中山・鬼塚・松井・伊藤)  
 20日 子育て支援『クリスマス会』  
 25日 学童クリスマス会

## 【居宅サービス係】

### 10月

6日 集団活動  
 企画ハイキング、料理クラブ  
 8日 京都市居宅介護等事業連絡協議会  
 (浅田、永瀬)  
 9日 上京ねっと

### 11月

20日 強度行動障害支援者研修(実践)3日間(1名受講)  
 21日 新任職員研修(中途)(1名受講)

## 【デイセンターふらっと】

### 10月

3日・4日 旅行…友愛の丘  
 20日 めが千本出店(やさそば・フランクフルト・かき氷(利用者2名・職員3名))  
 24日 福祉避難所見学(上京区長他2名)  
 29日 家族会役員会  
 30日 全体行事…BBQ

### 12月

1日 集団活動  
 企画料理クラブ  
 8日 居宅職員会議  
 12日・27日 サービス提供責任者会議  
 25日 支援調整会議

### 11月

3日 集団活動  
 企画料理クラブ  
 10日 居宅職員会議  
 15日・29日 サ責会議  
 20日・21日・22日 強度行動障害支援者養成研修(森)  
 27日 京都市居宅介護等事業連絡協議会  
 (浅田、永瀬)  
 支援調整会議

## 【きりりんく】

### 10月

2日 京都府強度行動障害支援者養成研修  
 (2日・3日・4日)  
 4日 北部自立支援協議会運営会議  
 5日 京都府IT事業重度障害者意思伝達装置実践研修会  
 7日 相談支援事業者座談会(北部自立支援協議会・基幹支援センター共催)  
 26日 京都府IT事業パソコン応用講座(26日・27日)

### 12月

27日 新任職員研修(新卒)(1名受講)  
 29日 生活介護等連絡協議会臨時定例会  
 2日 感染予防対策勉強会  
 6日 中堅職員研修会(1名受講)  
 12月29日から1月3日 冬季休業日

### 11月

16日 京都府IT事業重度障害者意思伝達装置説明会(京都市)  
 24日 北区こころのキャンパスネットワーク作品展  
 25日 北部自立支援協議会地域懇談会  
 30日 京都府IT事業重度障害者意思伝達装置説明会(福知山市)

### 12月

5日 北部自立支援協議会支援センター部会

## 【こころ】

### 10月

3日・4日 強度行動障害研修講師派遣  
 8日 ガイヘル研修講師派遣  
 つばき荘講演会  
 14日 相談支援専門員カフェ  
 17日 権利擁護ネットワーキング会議  
 18日

### 11月

13日 京都市審議会専門部会  
 14日 上京ねっと定例会  
 18日 15支援センター会議  
 スキルアップ研修開催  
 19日 事業所向け虐待研修  
 上京ネット定例会  
 20日 基幹支援センター会議  
 28日 医療的ケア専門部会懇談会

### 12月

5日 中部自立支援協議会事務局会議  
 12日 機能集約合議体  
 16日 医療的ケア児等コーディネーター養成研修  
 19日 中部自立支援協議会運営会議

※毎月、施設長会議・主任会議を実施しています。  
 その他、諸事業諸活動においても定例活動を行っております。

# センター往来

◎10月13日(日)・14日(月) 衣笠学区運動会は雨天のため中止となりました。また、10月14日(月)嘉楽学区体育祭は雨天のため途中で中止となりました。

◎10月15日(火)京都市保健福祉局より京都市自治記念式典で「レジリエント・シティ京都 防災功労特別表彰」を受けました。防災・減災に尽力していることの功績を称えたものとしていただきました。

◎10月16日(水)からデイセンターふらっと建物の耐震補強工事が始まりました。

◎10月20日(日)めが千本100円商店街に参加し、千本朱雀大路の街のふれあい広場でやきそば、フランクフルト、かき氷の店を、また西陣千本商店街でアクセサリーの店を出店し販売しました。

◎10月26日(土)時代祭に参加し、嘉楽学区の延暦文



威風堂々！ 加藤さん

官参朝列に職員三名浅田・宮崎・五十嵐が参列しました。

◎11月3日(日)令和元年度京都市消防団定例表彰式にて浅田将之・藤賀一暢が嘉楽分団員として優良消防団員表彰を受けました。

◎11月9日(土)地域の家臨時総会(北いきいきセンターにて)に浅田が来賓として出席しました。

◎11月10日(日)嘉楽中学体育館にて胸ドキキックベース大会が行われました。ご利用者も12名参加されました。

また、校庭にて嘉楽わっしょいも開催され市民福祉センターから出店し、岩手のリング販売と餅つきのお手伝い、消防団員として焼きそば販売の担当をさせていただきました。

◎11月16日(土)嘉楽学区の時代祭直会(ブライトンホテル京都)に浅田が出席しました。

◎11月23日(土)嘉楽学区総合防災訓練に消防団として浅田・宮崎が参加、西陣会ホームとなりのご入居者がヘルパーと参加されました。

◎12月6日(金)上京区140周年記念事業クロージング式典に中山が出席しました。

◎今年も、京都めいぶるワイズメンズクラブからじゃがいも・かぼちゃの販売ご案内をいただきました。皆様にはたくさんご購入のご協力をいただき、誠にありがとうございました。

## 計 報

十一月十八日  
デイセンターふらっと職員のお礼状をいただきました。お父様がお亡くなりになりました。天までの平安をお祈りいたします。

## 職員人事(常勤職員)

### 入 職

デイセンターふらっと

山下 智治(12月1日付)

### 退 職

西陣児童館

野崎瑤和子(11月30日付)

# 桜まつり開催予定

2020年4月5日(日)  
船岡山公園野外音楽堂



住所変更のある方、当機関誌のご不要な方はFAXにて(075)451-5700迄ご連絡下さい。

## 社会福祉法人 西陣会

。法人本部

。京都市民福祉センター

。地域活動支援センター

。地域生活支援事業

。レスパイトサービス

TEL 〇七五 四五二 一八九七二

FAX 〇七五 四五二 一五七〇〇

。西陣児童館

。京都市障害のある中高生の

タイムケア事業 ういす

TEL 〇七五 四五二 一八九七二

FAX 〇七五 四五二 一五七〇〇

。西陣会居宅サービス係

。相談支援事業所 きずな

TEL 〇七五 四七一 三三四一〇

FAX 〇七五 四四一 一五二九二

。デイセンターふらっと

TEL 〇七五 四七一 三三四一〇

FAX 〇七五 四四一 一五二九二

。西陣会ホームとなり

。ショートステイゆう

TEL 〇七五 四六八 一三〇六八

FAX 〇七五 四四一 一五二九二

。西陣会ホームきたまち

TEL 〇七五 四六二 一三三五五

FAX 〇七五 四六二 一三三五五

。京都市中部障害者地域生活

支援センター にしじん

TEL 〇七五 四七一 一六三三〇

FAX 〇七五 四五二 一三六一九

。京都市北部障害者地域生活

支援センター きらりんく

TEL 〇七五 七五二 一〇一〇六

FAX 〇七五 七五二 一〇一〇七